

# その11 茄子作

(平成6年7月15日号—第171号)

茄子作[なすづくり]の由来については、いくつかの説があります。昔、村が茄子の名産地だったことから、あるいは、高貴な方が村でとれた茄子を食し、おいしいと感動したという話から茄子をつくる村としたというのが一説。また、平安時代、惟喬親王[これたかしんのう]の狩猟用の鷹につける名鈴[なすず]をつくらされた村が名鈴作村で、いつの間にか茄子作村となったという説もあります。どの説も残念ながら確かな根拠はありません。



17 春日神社(茄子作3丁目)



18 方形周溝墓(茄子作遺跡)

昭和49年、この地区で弥生時代後期の住居跡と墓地跡が発見されました。この遺跡の特徴は、有力者のものだと思われる方形周溝墓[ほうけいしゅうこうぼ](1辺12メートル、幅1メートルほどの溝をコの字形にめぐらせた墓)があることです。北河内地方で初めて発見されたため、当時、多数の見学者がやって来ました。また、この墓の北側には大きな溝が掘られ、中から古墳時代初期までの土器がたくさん出土しました。このことから、この地には古くから、人が住み続けていたことがわかります。

2000年ほども前から人が住んでいた茄子作。茄子でも名鈴でも、壮大な歴史の中では、ほんのささいなことにも思えてきます。